

◆ 住宅建築紹介「根成柿の家」

松村 泰徳

今回ご紹介するのは、筆者が設計監理し昨冬完成した住宅建築です。ロケーションは、大和高田市内の旧村通りで正面には小学校が建っています。施主の家族構成は、ご兄弟（姉弟）とお母様、お姉さんのご主人と娘さんの5人家族です。正面は小学校ということもあり、登下校時の人通りは多く、かつ校庭から砂混じりの強風が吹き込んできます。建物の計画としては、通り面は閉鎖的にならざるを得なく、逆に東面は田畑で視界は抜けているという条件でした。

ご家族5人ではありますが独立した多世帯で一つ屋根の下に暮らすことを、敷地周辺情報を踏まえつつ、どう解いていくかが最大の課題でした。このような「文脈」から計画をスタートさせることになりました。

内部一階は、お母様のご希望で二室続きの畳室（一室はお母様の部屋）を西側に設け〈写真1〉、中央に配置した居間・食事間（LD）の南面開口は二間の全開口サッシとし〈写真2〉、下屋を掛け南テラスを取り込んだ開放的な構成としました。〈写真3〉また、その奥（東側）には弟さんの部屋を配することで、個人室同士の間合いをとりました。〈写真4〉



写真1：畳室手前は折上天井、奥は竿縁天井としている



写真2：LDは杉ムク床板張り、掘り炬燵を設えている

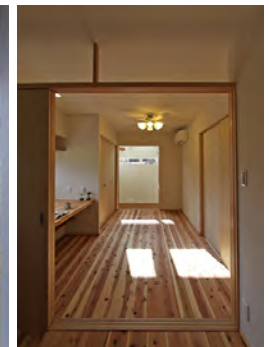


写真4：3室としながらも建具全開で1室空間となる

一方、お姉さん世帯の諸室のある二階には、畳敷きの掘り炬燵がある茶の間越しに、月見台を設けて夜空を楽しめる設えとしました。変化に富んだ平面計画としました。

〈写真5・6〉



写真5：「月見台」は大和平野が一望できる



写真6：お茶の間には書斎スペースを確保している



写真7：屋根に変化をつけ、端正に形を整えている



写真8：軒天井は大垂木・杉ムク板露しとしている

外部は日本の気候風土から先人が培ってきた「切妻」「庇」「軒の出」「下屋」「格子」などの、言わば建物の表情をも決定付ける“建築的機能”を意識的に強調して用いることで、訪れる人や通り見てゆく人に、印象に残る住宅建築をこの場所に造り、ご家族に住みつないで頂きたいと考えました。〈写真7・8〉

◆ まちを建築博物館に！

森本 晃尚

オープンハウス ロンドンというイベントをご存知でしょうか？通常は一般に公開されていないロンドン内の様々な建物の内部を無料で見学できるイベントです。毎年秋の週末2日間開催され、第1回の1992年には20施設のみ参加でしたが、現在は外務省や工場、著名建築家の事務所など800の施設・住宅が参加し、見学者は30万人にもものぼる大イベントに成長しました。このイベントを目当てにイギリスを訪れる外国人観光客もたくさんいるようですが、何よりも地元の方々が、このイベントを楽しんでいるようです。

「一般の人々が建築に対する関心や理解を深め、自分たちの暮らす環境への意識や知識を向上させる」という目標のもとに、見学だけではなく子供向けのワークショップなど様々な企画もあり、すべて非営利団体・ボランティア・施設の協力によって運営されています。

大阪でも同様のイベントが来年（2015年）開催されようとしています。昨年から大阪市で準備が進められている「生きた建築ミュージアム」というイベントです。御堂筋・船場・中之島エリアをミュージアムに見立て、まずは28件の建物（作品）が選ばれました。「生きた建築」とは現役の建物という意味。「使われ続け価値を更新し続けてこそ意味がある」という思いがこめられています。

1990年代の始め、ロンドンの市民はロンドンという街に暗く魅力的でないイメージをもっており、「自分たちの都市」というアイデンティティを持っていませんでした。しかしイベントが大きくなり、ミレニアムやオリンピックで街の更新が加速されたことも手伝い、イベントが始まって20年以上経た今、ロンドン市民の多くが建築・まちづくりに関心を持ち積極的に発言するようになったと言われます。市民自身が街に愛着を持ち、もっとよくしていこうという思いを持つことは戦前の「大大阪」の時代の人々の方が自然に出来ていたのかもしれませんが。このイベントが南港WTCの開発など、行政主導で進められてきたまちづくりから市民主導のまちづくりへ変わるきっかけとなることを期待しています。

歴史的建物の保存運動やマンション建設反対運動など、変わらないことへの運動も重要ですが、「もっとかっこいい建物を作れ！」といった未来に向けての運動ももっとあってよいのではと思います。



ロンドン市庁舎の見学



ロイズオブロンドンの見学の列



「生きた建築ミュージアム」中之島・船場エリア



大阪ガスビル



建築家ノーマン・フォスターの事務所の見学

◆ 編集後記

記録的な大雪が各地で観測されたりと、寒い日が続く今年の冬ですが、一足早く春号を皆様にお届け致します。ご愛読のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

松村担当の記事は、伝統的な外観を取り入れながら内部についてはご家族の住みに柔軟に対応したバランスの取れた住宅だと感じました。

森本担当の記事は、「一度中を覗いてみたい」という気軽さが、建築や街並への関心を生み出すキッカケになり得るのではと興味深く感じました。

(橋爪 恒平)

◆ 編集メンバー

井戸田 精一

井戸田 精一アトリエ

森本 晃尚

辻 建築設計室

辻 祐司

ささりな計画工房

何左 昌範

橋爪 恒平

atelier nest-アトリエネスト-

松村 泰徳

松村泰徳建築事務所

米田 巧

TAKUMI建築設計室

編集・発行 [アーキテクトキャラバン]

大阪事務局／天満スタジオ
大阪市北区天満4丁目11-8
工技研ビル2F

TEL : 06-7501-4517

FAX : 06-7503-4773

URL : <http://www.ym-arc.jp>

Copy right 2010-2014 Architect Caravan All rights reserved

奈良事務局／松村泰徳建築事務所
奈良県葛城市北花内261-5
松村ビル 2 F - W E S T

TEL : 0745-69-5938

FAX : 0745-60-6524

E-mail: contact@ym-arc.jp

「アーキテクトキャラバン」は、建築に携わる有志が集まり、その活動内容や住まいに関する情報などを、広く皆様へお届けできる場として、年4回季刊誌形式にて発行しております。新築・リフォームに限らず住まい全般のご相談等御座いましたら、遠慮なく右記事務局までご連絡頂きます様宜しくお願い致します。